

【巻頭言】

会長再任のご挨拶

会長 玉田 彰(53 回生)



2017年に島根県で開催された学友会総会で会長に就任させていただき、2期4年が過ぎました。定期的開催される学校行事や支部総会にも徐々に慣れ、昨年度が会長職の集大成との思いで意気込んでいた矢先にコロナ感染拡大。この一年はすべての行事がことごとく中止となり、5月に広島で予定されていた総会も母校をお借りしてのリモート開催を余儀なくされました。まずは先日の総会で引き続き会長に選任され、3期目を迎えましたことをご報告させていただきます。学友会には優秀な先生方が大勢おられるなか、7年後に迫った学友会創設100周年を万全の体制で迎えるため、最後の力を振り絞り2年間の任期を全うする所存です。皆様どうかご協力の程お願い申し上げます。

4月に入って変異ウィルスという言葉が再々耳にするようになってから、勤務先の大阪は医療崩壊と言っても過言ではない状況に陥りました。すぐにでも入院すべき症状なのにベッドの空きがなく、自宅待機中に重症化し、死亡する事例も耳にします。感染者数の増加に伴い重症者数も急増し、大阪府からは中規模以上の病院に不急の予定入院や手術を延期して、可能な限り感染者を受け入れるよう要請がありました。受け入れに応じた病院では感染拡大を考慮して、ワンフロアを感染病棟に当てている場合が多いようです。受け入れ当初は軽症ならびに中等症を受け入れて、もし重症化した場合は専門病院へ転院する手筈となっていました。重症患者の急増で転院先が見つからずそのまま治療を継続せざるを得ないケースも見受けられます。また、重症患者が増えたことでもよらない酸素の問題が発生している施設もあります。通常は軽症、中等症患者の酸素流量は鼻カニュラでも多くても10ℓ/分、ところが重症化するとネーザルハイフローで40～50ℓ/分を要する場合もあり、ワンフロアでの酸素使用量が使用限度量(配管上の制限)を上回ってしまう事態を招いているのです。予想以上の患者数と酸素量に対応しきれず、更にワンフロアを感染病棟に変更した病院もあるようです。このような対応により病床稼働率は大幅に低下し、赤字経営に陥るなどの苦境に直面している病院が多数存在すると聞き及びます。

さらに医療スタッフへの負担も増すばかりで、私たち放射線技師も業務量の増加(感染病棟でのポータブル撮影、感染者のCT、発熱外来や救急陰圧室でのポータブル撮影、当直者の増員)や感染対策への手間(N-95マスク・感染防護服の着用、装置や撮影室の消毒)により人員不足が深刻な問題となっています。さらに辛いのが日々の業務で溜まったストレスを発散できる場が奪われたことです。個人的な不満ですが、長年通い慣れたなじみの店に立ち寄ることもできません。家飲みばかりで毎日にうんざりしています。

さて、今年の学友会総会は誠に残念ながらリモート開催となりました。広島支部の皆様には2年に渡り周到な準備をいただき、多大なるご苦勞をおかけしましたが、今回の事態を受け2年後の広島開催を快くお引き受けいただきました。心より感謝申し上げます。これから徐々にワクチン効果が広まり、次回こそは通常開催できるものと信じてやみません。幸いなことに私自身は4月上旬に2回目のワクチン接種を済ませることができました。また、今回のワクチンは変異ウィルスにも効果的であるとの情報も耳にして、油断は禁物ですが少しばかりは安堵しています。しかし、現時点での日本人の接種率は10%にも達しておらず、全国レベルでの接種までには半年以上を要すとも予想されています。従って、学友会の活動もあと暫くはリモートを活用せざるを得ないでしょう。このように厳しい環境ではありますが、学友会の目的(会員相互の親睦を図り、母校の発展を後援する)だけは堅持できるよう学友会活動に取り組んでまいります。

最後に「学友だより」が皆様のお手元に届くころには、収束の兆しが見えていることを願いながら巻頭言を結びたいと思います。

以上